

聖学院大学 地域連携事業報告

2019



あげおワールドフェアでフェアトレードの周知活動と販売に取り組む学生たち

聖学院大学地域連携・教育センター

目次

はじめに.....	1
1. 地域連携・教育センターの活動	2
1-1 聖学院大学の地域連携の方向性	2
1-2 聖学院大学と地方自治体との協定	4
1-3 地域連携・教育センターの動き	6
1-4 地域連携の具体的な相談事例紹介	8
1-4 助成金による支援（ボランティア・まちづくり助成事業）	9
2. 学長裁量経費による地域連携の推進	12
2-1 学長裁量経費について	12
2-2 産学官連携と SDGs 推進のためのネットワーク形成とアクション	13
2-3 上尾市内在住外国人の調査	14
2-4 高齢化在宅介護への心理的支援計画	14
3. 地域と連携する授業	15
3-1 地元学（全学共通）	15
3-2 宮原地域学（全学共通）	15
3-3 埼玉学（人文学部）	16
3-4 釜石学（全学共通）	16
3-5 ボランティア論・概論（政治経済学部・心理福祉学部）	17
3-6 ボランティア体験の言語化技法と実践（全学共通）	17
3-7 コミュニティサービスラーニングⅠ・Ⅱ（全学共通）	18
3-8 インターンシップ（企業研修型）（全学共通）	19
3-9 被災地支援・インターンシップ A～C（全学共通）	20

3-10 地域活動実習 A～C（全学共通）	20
4. 高大連携	21
4-1 復興支援活動を通じた高大連携.....	21
4-2 高大連携授業.....	23
4-3 ボランティア関連授業を通じた小中高大連携	24
4-4 その他の学校間連携	25
5. 教職員と学生による地域活動	27
5-1 バッファローあげお（八木規子ゼミ：組織行動論）	27
5-2 フェアトレードチーム「empower」（M.サベットゼミ：国際理解）	28
5-3 アッピー応援隊（金谷京子ゼミ：発達心理）	29
5-4 パワフルキッズ（金谷京子ゼミ：発達心理）	30
5-5 地域の福祉施設×福祉を学ぶ学生との交流事業（小沼聖治ゼミ：生活支援論）	31
5-6 地区社会福祉協議会×福祉を学ぶ学生との交流事業 （小沼聖治ゼミ：生活支援論）	32
5-7 福祉教育について考えるこころの輪「ここ輪」 （相川章子ゼミ：精神保健福祉論）	33
5-8 子ども大学 あげお・いな・おけがわ.....	34
5-9 特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進.....	35
5-10 さいたま KI-TA まつり.....	36
5-11 大谷地区自主防災啓発事業.....	37
5-12 ほたる祭り	39
5-13 復興支援ボランティアスタディツアー.....	40
5-14 ボラフェス！	42
5-15 総合図書館による地域連携活動.....	43
5-16 釜石フェスティバル	45
5-17 釜石市保育士インターンシップ	46

5-18	あげお子ども大学	47
6.	公開講座	48
6-1	聖学院大学公開講座	48
6-2	履修証明プログラム	49
6-3	社会人を受け入れる教育プログラム	50
7.	地方自治体の委員会・審議会等の委員	51

はじめに

成熟化しつつある社会の中で、地域の存在がその重要性を増しています。大学は地域の中で孤立した存在ではなく、地域の一員であることを改めて自覚し、地域社会と多様な連携を進める時代になりました。

大学は本来、教育と研究の場です。学生に対する教育に留まらず、地域の方々を対象に公開講座を、上尾市とさいたま市と連携し、長年開講してきました。小学生を対象にした「こども大学」も、日本薬科大学、上尾市、桶川市、伊奈町と協力し、毎年開催しています。近年では、学生が高校に出向いて、ボランティア活動や防災に関する授業をさせて頂くようにもなりました。

研究面につきましては、地域社会の課題をテーマにした調査などを始めつつあります。大学としまして、このような活動を後押しすべく、若干の予算を用意しています。

一方で、学生の学びを深めるとともに、幅広い力を身につけるため、地域を対象にした授業も行っています。その実施に際しましては、地域の方々や企業の皆様のご協力を頂いております。

本書は、2019 年度の地域連携・教育活動をまとめたものです。その大半は以前からの継続です。地域連携は継続することが重要です。全く同じことの繰り返しではなく、関わる学生や教員が交代することで、毎年、何らかの新鮮さが生まれています。

本学としましては、これからも、地域連携を深め、地域での教育を充実させて参りたいと存じますので、引き続き、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

副学長/地域連携・教育センター所長（2016-2019 年度）/政治経済学部教授
平 修久

1.地域連携・教育センターの活動

1-1 聖学院大学の地域連携の方向性

聖学院大学では、地域連携・教育の方針として、2017年に下記のような方針を決定しています。

聖学院大学 地域連携・教育方針

大学と地域は、対等な立場で、相互理解を深めながら、共に成長し合う関係である。そのため、本学は、地域での学生の学びに際して地域貢献を心掛け、地域活動において市民や学生など関わる人々の学びや成長を大切にする。

このような地域連携・教育を通して、学生が本学の教育目標である「良き隣人となる」ことを目指す。学びや活動の一つひとつ積み重ねることにより、周囲の人々にとっての良き理解者・パートナー、時に支援者や伴走者になることである。このことが、多様な人々と共に生きる共生社会を、地域に形成することにつながる。

1. 地域を対象にした学び（課外活動を含む）

【方針】

- 地域の歴史・文化・産業・生活を学ぶ。
- 地域での体験・活動を通して、教室での学びの確認・実践・深化を図るとともに、実践力、対話力、共感力を強化する。
- 地域という身近な教材を活用して、学ぶ意識を醸成・強化したり、学びのテーマを発見したりする。また、多種多様な人との出会いを通して、将来の進路を見つける。
- 身近な活動場所である地域において、「手伝う・参加する」から、「つくる・企画する」へと地域への関わり方を深化させる。

【方法】

- サービス・ラーニング
- ゲストスピーカーによる授業・講演
- 多様な人々との交流
- 施設等の見学・視察、まち歩き
- ボランティア活動 など

2. 地域を対象とした研究

【方針】

- 地域の問題・課題の分析及び改善・解決に関する研究や、地域の事例を扱った研究を進める。

○研究の成果は、地域へフィードバックする。

【方法】

○行政や企業などとの協働研究

3. 地域への貢献

【方針】

○本学の特色を活かした社会的役割の具現化を図る。

○地域との望ましい関係性を構築し、維持する。

【方法】

○大学の施設（図書館、グラウンドなど）の開放

○地域に開かれた大学：授業の開放、公開講座の開催、学園祭、大学創立記念音楽祭、
ほたる祭りなど

○地域・地域の企業・役所等への出前講座

○地域問題解決への参画

○行政設置委員会での委員活動

○ボランティア活動

2017 年 12 月 13 日大学教授会承認



1-2 聖学院大学と地方自治体との協定

聖学院大学では、地域連携を強化するため埼玉県内の自治体との包括協定を始め、東日本大震災の復興支援がきっかけで、岩手県釜石市との連携協定を締結し、各自治体と緊密な連携を図っています。

①さいたま市と聖学院大学との連携に関する包括協定

締結日：2013 年 3 月 29 日

連携事項

- (1) 健康・福祉に関する事項
- (2) 地域の活性化に関する事項
- (3) 人材の育成に関する事項
- (4) 学術研究や教育に関する事項
- (5) 災害対策に関する事項
- (6) その他両者が協議して必要と認める事項

②上尾市と聖学院大学との連携に関する包括協定

締結日：2013 年 9 月 27 日

連携事項

- (1) 地域資源を活用した経済・産業・地域活動の振興に関すること
- (2) 健康・福祉の向上に関すること
- (3) 人材育成に関すること
- (4) 学術研究および教育に関すること
- (5) 災害対策に関すること
- (6) その他、目的を達成するために必要な事項

③春日部市と聖学院大学との包括的連携協定

締結日：2014 年 4 月 22 日

連携事項

- (1) 地域政策に関すること。
- (2) 健康・福祉の向上に関すること。
- (3) 人材育成・交流に関すること。
- (4) 地域の活性化に関すること。
- (5) 生涯学習の推進に関すること。
- (6) その他前条の目的を達成するため必要な分野に関すること

④釜石市と聖学院大学との連携に関する協定

締結日：2014 年 1 月 29 日

連携事項

- (1) 子どもの健全育成と保健福祉の推進に関すること
- (2) 地域の活性化に関すること
- (3) 復興支援等に関すること
- (4) その他両者が協議して必要と認めること

⑤その他の協定について

特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進に係る連携協定

締結日：2014 年 7 月 18 日

締結先：埼玉県

目 的：少子高齢化が進行する中で特別県営上尾シラコバト住宅における諸課題に対応する研究や取組等を進めることにより、団地の共助による活性化、良好なコミュニティ形成等に資すること

1-3 地域連携・教育センターの動き

(1) 活動の目的と経緯

2012年4月にそれまでも取り組まれてきた地域における学生ボランティア活動への支援と2011年3月11日に起きた東日本大震災への支援を継続的に行うため、ボランティア活動支援センターが設置されました。翌2013年4月1日に「自治体、企業、NPOなどの地域諸団体と連携し、大学として社会貢献の機能を果たすとともに、聖学院大学学則第2条に基づき、地域活動に参加することにより『実践的に成熟し、民主的な社会人としての良識と見識をもった有為の人間を育成する』教育的使命を遂行する」ことを目的に地域連携・教育センターが設置されました。

(2) 活動内容と実績

①自治体との協定に基づく連携調整

埼玉県、さいたま市、上尾市、春日部市、釜石市と締結した協定に基づき、年1回の連携推進会議の他、自治体・大学の要望に応じて、各種委員の推薦、講師の調整、連携事業の実施に向けた調整を行っています。協定を締結していない行政や教育機関等からも、各種依頼に対して調整を行っています。

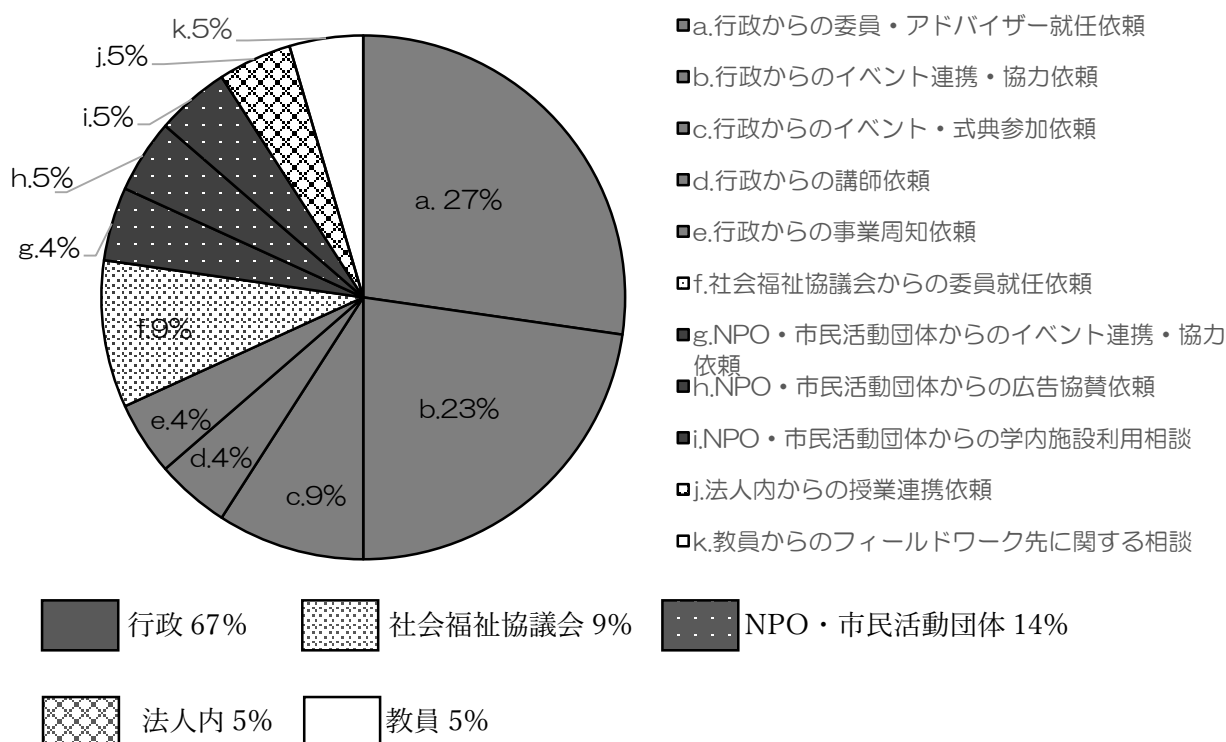
②地域団体・企業との連携調整

大学の最寄駅のJR宮原駅周辺の商工関係者で構成される「さいたま北商工協同組合」を始め、大学周辺の企業・NPO等と連携し、事業実施に向けた調整を行っています。

参考：2019年度地域連携・教育センター相談対応件数

月	相談件数	マッチング件数	月	相談件数	マッチング件数
2019年4月	3	2	10月	3	3
5月	5	5	11月	2	1
6月	4	4	12月	3	3
7月			2020年1月		
8月			2月	1	1
9月			3月	1	1
合計				22	20

参考：相談内容内訳



③大学と地域が連携して行う事業の支援

大学と地域が協働して取り組む事業において、支援を行っています。具体的な事業については、2章（12 ページ以降）、5章（27 ページ以降）で紹介します。

（3）担当部門

担当部署：地域連携・教育センター

1-4 地域連携の具体的な相談事例紹介

（1）地域からの相談事例

相談日	2018 年度より継続相談
相談者	さいたま市日進公民館
相談内容	毎年、夏休み期間中に小学生を対象とした体験学習「キッズサマーカーニバル」のなかで、最近小学生の注目を集めている、ヒップホップを教える教室を実施したいと考えている。ヒップホップを子どもたちに教えることができる学生を紹介してほしい。

対応内容	地域連携・教育センターで調整を行った結果、ダンス同好会 CRUSH の学生有志がゲスト講師を引き受けてくれた。日進公民館の担当者と学生を直接つなぎ、その後は両者で内容等の打合せをすすめていただいた。
成果等	2019 年 8 月 9 日（金）に「みんなでおどろう ヒップホップ」教室が行われ、ダンス同好会 CRUSH の有志学生 5 名が講師を担った。小学校中学年～高学年計 14 名の子どもたちが参加した。

相談日	2019 年 6 月 27 日
相談者	上尾市市民協働推進課
相談内容	10 月に実施予定の「あげおワールドフェア 2019」では、上尾市に住まわれている異なる文化と歴史を抱えて日本に來られた方が、母国の魅力を伝え交流を図ることを目的にしている。そこで、「国際交流」「多文化共生」をテーマに取り組んでいらっしゃるゼミ・団体などがあればぜひ参加していただきたい。
対応内容	学内の教員・学生団体に呼びかけを行い、国際理解をテーマとした欧米文化学科の M.サベット教授のゼミが物販販売（フェアトレード商品）に参加した。
成果等	報告書の 28 ページでも紹介している通り、ゼミの学習にもつながり、上尾市の国際交流へも貢献するという win&win の関係ができた。

相談日	2020 年 3 月 18 日
相談者	上尾市市民活動支援センター
相談内容	「上尾市協働のまちづくり推進事業」において、市の選挙管理委員会事務局と連携して「若者の主権者教育と投票率の向上」をテーマに協働して取り組む団体を募集している。聖学院大学のゼミや学生で希望するところがあれば紹介してもらいたい。
対応内容	主として政治経済学科の教員に周知を行うが、新型コロナウイルスの影響もあり、希望するゼミ・団体にはつながらなかった。
成果等	協働まちづくり事業の存在を知っていただく機会になったが、具体的な地域連携事業にはつながらなかった。

（２）学内からの相談事例

相談日	2019 年 6 月 21 日
相談者	人間福祉学科 小沼聖治助教
相談内容	秋学期の 3 年生のゼミ（生活支援論ゼミ）において学生企画によるフィールドワークの実施を予定している。フィールドワーク先を学生たちが決

	めるにあたり、必要に応じて福祉施設等の紹介をお願いしたい。
対応内容	3チームのうち、2チームよりフィールドワーク先について相談があり、1チームは、2020年度にハンセン病資料館見学会実施の方向で検討、あとの1チームは、「社会福祉協議会が地域でどのような役割を担っているのかについて知りたい」という希望だったので、地域連携・教育センターで調整を行った結果、社会福祉法人さいたま市社会福祉協議会西区事務所がフィールドワークの相談を引き受けていただくこととなった。西区事務所の担当者と学生、小沼助教を直接つなぎ、その後は両者で内容等の打合せをすすめていただいた。
成果等	報告書の32ページでも紹介している通り、2020年2月28日(金)に西区事務所が管轄となっている指扇地区社会福祉協議会（以下、地区社協）にて、フィールドワークとさいたま市社会福祉協議会職員の進行による地区社協役員、地区内福祉施設職員の方々との意見交換を実施した。

1-5 助成金による支援（ボランティア・まちづくり助成事業）

（1）活動の目的と経緯

学内で地域連携や地域貢献活動に取り組む学生団体（ボランティア団体）やゼミ活動への支援として、2015年度から大学同窓会と連携し総額30万円の助成を行っています。助成にあたっては、公開審査会におけるプレゼンテーションや事業終了後もポスターセッション方式による報告会が行われます。そのため、助成金申請を通して、自分たちの「伝える力＝プレゼン力や事業計画づくり」を磨くとともに、地域の方々や先輩・教職員等多くの人が応援していることを実感すること、さらに、地域の方々に、学生の活動を知っていただくと共に彼らが取り組む「地域の課題」について知っていただくことにつながっています。また、公開審査会の際には来場者が任意で学生を直接応援できるシステムである「ドネーションパーティー」を導入し、学生と地域の方々が直につながるきっかけの場にもなっています。

今年度は新たな取り組みとして、上尾市社会福祉協議会に協力いただき、地元上尾市で活動する団体を対象に、赤い羽根共同募金からの助成金を受けられることとなりました。過去募金活動に参加した中学生が審査員になることで、より地域に根差した視点や地域から応援されている実感を持って活動に取り組んでもらう機会としました。

(2) 活動内容と実績

①実施スケジュール

日にち	実施内容
5月13日(月) 15日(水)	説明会兼研修会
6月5日(水)～ 7日(金)	公開審査会申請団体によるリハーサル
6月15日(土)	公開審査会&ドネーションパーティー
6月20日(木)	助成金交付式
10月1日(火) 10月19日(土)	上尾市社会福祉協議会呼びかけによる赤い羽根共同募金運動への参加 赤い羽根の助成を受けた団体に所属する学生たちが上尾駅で行われた街頭募金活動に参加しました。

②審査委員

NO	選出枠	肩 書	氏名(敬称略)
1	大学同窓会	副会長	秋谷大輔
2	ボランティア応援 卒業生	釜石リージョナルコーディネーター (金援隊)	由木加奈子
3	地域の方	上尾市ボランティア連絡会会長	本城文夫
4	地域の方	さいたま北商工協同組合 副理事長	新井一年
5	専門家(NPO 関係)	NPO 法人アクションポート横浜 代表理事	高城芳之
6	専門家 (ボランティア関係)	社会福祉法人上尾市社会福祉協議会 上尾市ボランティアセンター	岡田淳一
7	大 学	副学長 ボランティア活動支援センター所長	平修久
8	大 学	地域連携・教育センター副所長	猪狩廣美

③ 中学生審査員

赤い羽根共同募金活動経験者である上尾市立南中学校の生徒4名

④ 申請団体と助成額

NO.	団体名	所属 学生数	事業名	申請額	決定額	赤い羽根	寄付金 (ドネーション)	合計
1	Heart&Smile	11人	イベントを通して地域交流活性化を目指し、笑顔を届ける。	50,000円	17,500円	1,500円	8,000円	27,000円
2	防災戦隊 マモルンジャー	12人	日常生活を見直して、次につなげる	50,000円	50,000円	3,500円	15,000円	68,500円
3	バッファローあげお	12人	上尾市内在住外国人の調査：多文化共生施策の認知度、評価、潜在的ニーズを中心に	50,000円	20,000円		18,000円	38,000円
4	こども・あそびラボ	5人	子どもと遊び支援	50,000円	25,000円		10,000円	35,000円
5	児童文化研究同好会 てふてふ	13人	親子で楽しむ会	30,000円	12,500円		10,000円	22,500円

6	キッズかけっこ教室 (陸上競技部有志)	5 人	キッズかけっこ教室 (陸上競技部有志)	50,000 円	50,000 円		17,000 円	67,000 円
7	パワフルキッズ	15 人	しらこぼと遊び広場	40,000 円	10,000 円	3,000 円	9,000 円	22,000 円
8	チーム釜フェス	6 人	釜石フェスティバル 2019	50,000 円	22,500 円	500 円	17,000 円	40,000 円
9	若者の就労支援ネット ワークムーミンの 会	5 人	新たな可能性を明日へ繋 ぐ	40,000 円	17,500 円	2,000 円	28,000 円	47,500 円
10	聖学院大学ボランテ ィアアソシエーショ ン・GRACE	70 人	GRACE ボランティアプ ロジェクト	50,000 円	17,500 円	1,500 円	9,000 円	28,000 円
11	復興支援ボランティ アチーム SAVE	43 人		30,000 円	12,500 円		16,000 円	28,500 円
12	Unity(ユニティー)	10 人	地域活動支援センター ベルベッキオ 交流事業	50,000 円	22,500 円		26,000 円	48,500 円
13	聖学院大学防犯ボラ ンティアチーム STOP!	26 人	防犯啓発プロジェクト	40,000 円	10,000 円	500 円	11,000 円	21,500 円
14	empower	10 人	フェアトレード	50,000 円	0 円	2,500 円	15,000 円	17,500 円
15	アッピー応援隊	5 人	アッピー応援隊	21,000 円	12,500 円	3,000 円	7,000 円	22,500 円
合計					300,000 円	18,000 円	216,000 円	534,000 円

(3) 担当部門

担当部署：ボランティア活動支援センター

2. 学長裁量経費による地域連携の推進

2-1 学長裁量経費について

「学長裁量経費」は、聖学院大学において、建学の精神のもと、学部学科の枠を越えて大学の教育・研究の深化発展をうながすため、学長の裁量によってその配分及び支出を決定することができるものです。

学長裁量経費の趣旨及び用途に合致した事業計画案を公募しており、そのなかに「本学における社会貢献活動又は地域連携活動のための措置に要する費用」が用途のひとつとして位置付けられています。

公募対象者：本務教員(専任及び特任教員)、本務職員（総合職及び特定職全職員）

2-2 産学官連携と SDGs 推進のためのネットワーク形成とアクション

(1) 活動の目的と経緯

埼玉県下の SDGs への取り組みを始めている企業や自治体をはじめさまざまな団体との連携を模索し、ともに勉強会などを行いながら具体的なアクションを連携してゆくための緩やかなネットワーク形成を行います。これらを積み上げ人間関係を形成してゆく中で、SDGs 達成のための具体的なアクションを協働で取り組むことができるような、ある程度恒久的なプラットフォーム形成へと繋げていきます。



SDGs メニューを食堂で PR する学生たち

(2) 活動内容と実績

①NPO 法人国際連合世界食糧計画 WFP 協会、株式会社レパストとの協働のもと、学食で「SDGs メニュー」を提供し、1 食あたり 20～30 円を国連 WFP を通じて途上国の食糧支援に寄付する企画を実施しました。

実施期間：12 月 9 日(月)～23 日(月)の平日(11 日間)

場所：4 号館 1 階学生食堂

企画：食堂寄付メニュープロジェクト学生メンバー、プロジェクト 7 教職員

②「SDGs de 地域創生」カードゲーム公認ファシリテーター養成講座に教員 1 名が参加し、公認ファシリテーターの認定を得ることができ、今後、教育活動などで同カードゲームを用いた SDGs 理解や推進が可能になりました。

③2019 年度における上述①の活動と成果を詳しく記録・紹介するとともに、今後の活動への参加呼びかけに活用するため、「SDGs & Seig Newsletter 2019-2020」を発行しました。

(3) 担当部門

担当部門：プロジェクト 7（産学官連携＋SDGs 推進＋ダイバシティ推進）

担当教員名：高橋愛子教授、八木規子教授、西海洋志准教授

➤ 2-3 上尾市内在住外国人の調査

(1) 活動の目的と経緯

5 章 5-1 バッファローあげおを参照

(2) 活動内容と実績

5 章 5-1 バッファローあげおを参照

(3) 担当部門

担当部門：政治経済学部政治経済学科

担当教員名：八木規子教授

➤ 2-4 高齢化在宅介護への心理的支援計画

(1) 活動の目的と経緯

在宅介護への心理的支援を目的として、上尾市健康福祉課との連携で上尾市「介護ころ相談室」の開設に向けた準備を行いました。

(2) 活動内容と実績

今年度は、準備として、上尾市高齢介護課への取り組み説明、担当課が実施している「介護家族会」への陪席、「介護家族会」担当の包括支援センター職員との意見交換、を行いました。上尾市「介護ころ相談室」は、2020 年 5 月より、月に一度程度開室することが決定しました。（コロナウイルス感染症予防のため、7 月からの開室となりました）

(3) 担当部門

担当部門：心理福祉学科

担当教員名：堀恭子特任教授

3.地域と連携する授業

3-1 地元学（全学共通）

（１）授業の目的と経緯

普段暮らしている「地元」であっても、意外と知らないことは多い。また、最近のまちおこしなどでも、地元の資産を当たり前すぎて気が付かないことを掘り起こしていく手法も常套である。こうしたことから地元への気づきをどのように行うのか、という手法を実践的に学ぶ。

（２）活動内容と実績

「地元学」は、地域とは何か、地域に住むとはどのような関係性の中で暮らすことなのか、そこには大学の学びの専門性とどのようなかわりがあるのか、といった基礎知識と理解をすることを目的とする。そのため、講義及び実際にこの周辺を歩いて学ぶ。実際にフィールドワークを行い、その成果をまとめ、発表するといった流れで、アクティブラーニングを主体とする。

（３）担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：猪狩廣美、渡辺正人

3-2 宮原地域学（全学共通）

（１）授業の目的と経緯

地域での学外授業と、グループでの討議・作業・発表を軸としたアクティブラーニングを通して、地域の理解を深め、地域の発展に資する学生の役割、調査方法、計画づくりについて学ぶ。

（２）活動内容と実績

地域社会には、幅広い年齢層の人々が多様な考え方をもち、それぞれの暮らしを営んでいる。地域での暮らしをより良くするには、居住者ばかりでなく、地域で働き、学ぶ人たちも協力・参画することが望まれる。

本学に接する宮原地域では、約 20 年間にわたり、イベント開催や地域調査などを、地域の方々と学生がともに取り組んできた。本講義では、地元のさいたま北商工協同組合の協力を得て、宮原地域の概要を学ぶとともに宮原地域をより良くするための方策を考える。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：平 修久

3-3 埼玉学（人文学部）

(1) 授業の目的と経緯

まずは聖学院大学がある「埼玉」という地域の場に視点を設定して、現代のグローバル化した時代に生きるとはどういうことかを、埼玉の歴史、文学、思想、言語、芸術等の多様な視点から考え、大学で学ぶことの意味を、具体的な事象をふまえつつ、大きく広く考えていくことをめざす。

(2) 活動内容と実績

人は地域の中で生まれ、育ち、生活をしているが、同時に生活のなかで、場所的限定をこえて、人間の生き方を考えもする。そして、現代では生活の場自体が、通有の世界的な問題や状況（人権、経済的困窮など）の中にある。本講座は、地域に生きることと他方でのグローバル化、そうした状況下に生きる私たちを、埼玉・北関東という場をてがかりに考えていく授業である。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：人文学部（2年次必修科目）

担当教員：コーディネート担当として 清水均、村松晋

3-4 釜石学（全学共通）

(1) 授業の目的と経緯

聖学院大学と釜石市の提携関係の中、本学学生の釜石地域に対する理解を深め、今後の連携関係を進めてゆく基盤をつくる。

(2) 活動内容と実績

2011年の東日本大震災で、東北は大きな被害を受けた。東北は、歴史的にも数度の地震やそれに伴う津波による被害を受けながらも、そのたびに立ち上がり、今日を迎えている。それには、東北の持つ風土的な特性があり、そこに暮らす人々の精神性が深く関係していると言われる。そうした東北の中でも、本学と関係を深めてきている釜石市とその周辺を取り上げる。釜石市は、他方ではラグビーの町としてグローバルな地域でもある。本学の掲げる「グローカル」な場としてのモデルとして考えていく。「東北に生きる」ということを通じて「地域で生きる」ということはどういうことかを、考えてみたい。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：渡辺 正人、平 修久、金谷 京子

3-5 ボランティア論・概論（政治経済学部・心理福祉学部）

(1) 授業の目的と経緯

東日本大震災以降、災害支援のボランティア活動を始め、最近ではオリンピック・パラリンピックボランティアなどが注目されています。このボランティア活動について、改めて自分たちの日常レベルに落として考えると共に、現代社会におけるボランティアの実情と意義を学びます。「ボランティア=いいこと」という理解ではなく、その問題点も理解した上で、受講生一人一人が自分なりの「ボランティア観」を持てることを目標としています。

(2) 活動内容と実績

講義とゲストスピーカーの話を中心とした内容となります。ボランティア・市民活動についての基礎的な知識、また実際の活動内容について学びます。受講人数によっては、参加者同士のグループワークも複数回実施する予定です。また、課題レポートでは実際の活動に参加した上での感想と考察が求められますので、講義外でのボランティア活動にも参加していただくことになります。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：政治経済学部・心理福祉学部

担当教員：川田虎男

3-6 ボランティア体験の言語化技法と実践（全学共通）

(1) 授業の目的と経緯

受講生が自らのボランティア体験を言語化する技法を身につけることにより、第1に体験を通して自分が感じたことを整理したり深く考えたりすることで、社会の問題を自分の課題として考えることができるようになる。第2に、ボランティアの現場で明らかになった自分の特徴や強み・弱みを再確認して、自己成長に役立てることができる。そして第3に、言語化されたボランティア体験は、他者に参加を促し、課題解決を後押しする可能性もある。

受講者がこれまでに参加したボランティアを、ただ単に体験して終わるのではなく、言語化できるようになり、成長につながるようにすることが目的である。

（２） 活動内容と実績

言語化技法として、自分自身との対話であるボランティア体験を振り返る技法と、外向けの表現としての文章やプレゼンテーション技法を教授し、講義全体の半分ほどを文章作成・プレゼンテーション・グループワークなどといった実習の機会とした。振り返りの際のポイントとしては、KPT(Keep:継続したいこと／Problem:改善点／Try:次に挑戦したいこと)や、体験したボランティア活動と社会課題との関連を意識すること等を指導した。文章作成は2回行い、1回目に作成した文章は受講生全員に配布しアドバイスを送り合った。また、教員による添削指導を行った。これらを参考に各学生が修正した文章を最終提出し評価した。プレゼンテーションは、受講者全員に向けたものを2回行った。1回目のプレゼンテーションを受けてグループワークにより学生間でアドバイスを送り合い、教員による指導を経て2回目のプレゼンテーションとした。

受講者 15 名のうち 11 名が単位を取得した。当初の授業目的は概ね達成することができたと考える。ただし、ボランティア体験を有しないまま受講した学生が多く、また受講者間でボランティア活動への意欲に大きな差があり、授業運営に困難を生じる場面があったことは課題である。次年度はシラバスや初回授業でのガイダンスを改善する等の工夫をした。

（３） 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：若原幸範、宮腰義仁

3-7 コミュニティサービスラーニング（CSL）Ⅰ・Ⅱ（全学共通）

（１） 授業の目的と経緯

サービスラーニングは、地域社会や地球規模の問題解決のために活動する学外の組織・施設で社会貢献活動을しながら学ぶ体験学習の手法である。また、そのプロセスにおいては、必要に応じて学生の主体的参加と課題探求・解決を中心にすえた学習方法 PBL(Project Based Learning)も用いる。この授業では、その準備として基礎知識の習得、活動現場の選択と活動計画づくりを行う。

（２） 活動内容と実績

この講義は、別に関講するコミュニティサービスラーニングⅡ（CSLⅡ）の準備を目的としています。CSLⅡは、学生一人ひとりが原則 50 時間以上の社会貢献活動に参加し、

事前学習、ふりかえり、レポート作成、発表などを通じて、学びとしていく科目です。本講では、そのための準備として講義・実習を行います。

(3) 担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：川田虎男

3-8 インターンシップ（企業研修型）（全学共通）

(1) 授業の目的と経緯

あらためて言うことではないかもしれませんが、大学生として過ごす時間は有限であり、やがて大学を卒業する時期がやってきます。どのように過ごしたら「良い大学時代だった」と卒業時に自信を持って言えそうですか？また、大学卒業後はどんな人生を送ってみたいと考えていますか？

これらの質問への「あなたなりの答え」を見つける（あるいは生み出す）力がつく、それがこの授業で学ぶ意義です。

進学、就職、留学、あるいは起業等、卒業後の進路には様々な選択肢があります。就職するにしても、どんな企業に就職するのか・・・これはひとりひとり違います。あなたにとってベストな選択はあなたしかわかりません。だからこそ、「自分にとっての答え」を考え、選択する力が必要なのです。

本授業で経験する、事前研修・インターンシップ実習、事後研修、成果発表、こうした一連の経験を通して、自分に対する理解や、仕事に対する理解を深めます。同時にコミュニケーション力や行動力といった社会で求められる基礎力を高めていきます。そうした経験や学びを通して、卒業後の将来やこれからの大学生活のことを、より深くリアリティを持って考えられるようになるでしょう。自分の進路について現時点での考えを明確にすること、社会人としての基礎力を高めること、それが本授業の目標です。

(2) 活動内容と実績

本授業の中心となるのは、企業でのインターンシップ実習です。実習の効果を最大限高めるために、事前・事後の研修と、成果報告会を実施します。

担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：酒井俊行、中田順平

3-9 被災地支援・インターンシップ A～C（全学共通）

（１）授業の目的と経緯

地震、津波、台風・大雨などの自然災害の被災地では、復旧、復興に関する多様な支援を必要とする。関連する活動に携わることにより、災害の復旧・復興の課題、留意点、方策などを学ぶ。被災地の課題や支援ニーズなどを人に説明し、支援のあり方などを考えられるようになることを目標とする。

（２）活動内容と実績

本学の定める機関、又は活動の証明が可能な外部機関等で被災地および避難所における復興支援活動を行う。または、被災地の民間企業、NPO、自治体等における実務実習を行う。

（３）担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：平修久

3-10 地域活動実習 A～C（全学共通）

（１）授業の目的と経緯

地域の問題は、地域住民が協力して対応することが求められる。しかし、高齢化により地域の担い手が減少し、学生を含む若者も地域の運営や維持に関わることが期待されてきている。本科目は、地域の問題・課題を理解し、地域活動に関わり、住民による地域の運営や維持の重要性を学ぶものである。地域の問題・課題を人に説明し、それらの対応策を考えられるようになることを目標とする。

（２）活動内容と実績

清掃や高齢者の見回りなど、自治会・町内会などの地縁団体や外部機関等が中心となって地域課題に取り組む活動を実践したり、地域イベントの企画・運営などに携わる。合わせて、それらに関連する必要な事項を外部機関等で学ぶ。

（３）担当部門・担当教員名

担当部門：全学共通（基礎科目）

担当教員：平修久

4. 高大連携

4-1 復興支援活動を通じた高大連携

(1) 活動の目的と経緯

2011 年 8 月より、本学ではボランティアスタディツアーを実施しています。今年度は、春、夏、冬と、計 3 回のツアーを実施しました。本ツアーのうち、夏のツアーでは高大連携として、系列校である聖学院中学高等学校とさらには、自由の森学園高等学校と共催し、ツアーの企画作りから大学生・高校生が協働して取り組んでいます。



「釜石よいさ」に参加する自由の森学園高等学校、
聖学院中学高等学校の生徒と本学学生

(2) 活動内容と実績

① 自由の森学園高等学校との連携協定

自由の森学園高等学校生徒の聖学院大学復興支援ボランティアスタディツアー参加に関する協定

締結日：2018 年 4 月 27 日

目 的：大学が実施する復興支援ボランティアスタディツアーへの自由の森学園高等学校に在学する生徒の参加について、大学は地域連携・高大連携事業の一環として受入れ、実施に当たっては、大学と高校が連携し取り組む。

② よいさっ！プロジェクト 6

東日本大震災から 2 年の 2013 年 8 月に復活した釜石の夏の風物詩である「釜石よいさ」に踊り手として参加することをメインとして、地元の方々との交流や、震災学習を行うプロジェクトです。今年度は、聖学院中学高等学校、自由の森学園高等学校の生徒が参加しました。

i) プロジェクト会議の実施

3 校でプロジェクトリーダーを選出。プロジェクトリーダーと 3 校の教職員で月 1 回程度の合同会議を実施。また大学においては週 1 回ペースでプロジェクトリーダー会議を独自に行いました。さらには現地の下見を大学のプロジェクトリーダーと 3 校の教職員で行い、ツアーのプログラム作りを行いました。

- ・合同会議：5月25日(土)、6月22日(土)、7月13日(土)
- ・大学プロジェクトリーダー会議：5月23日(木)、29日(水)、6月13日(木)、20日(木)、
27日(木)、7月4日(木)、11日(木)、18日(木)
- ・下見：7月6日(土)～8日(月)

② ツアーの実施

- ・ツアー準備会(大学のみ)：7月17日(水)
- ・ツアー事前学習会(3校合同)：7月21日(土)
- ・ツアー日程(3校合同)：8月2日(金)～5日(月)
- ・活動場所：岩手県釜石市鶴住居町・大只越町・宮城県石巻市ほか
- ・宿泊：8月2日(金)～4日(日) 釜石市民交流センター(大学のみ)
8月4日(日)～5日(月) 南三陸まなびの里 いりやど(3校合同)
- ・活動内容：

ー慰霊施設訪問と仙寿院住職のお話(大平墓地公園、仙寿院)

ー活動①(5つの活動から1つ選択)

- 釜石の“できごと”をたどる(鶴住居町、三陸鉄道)
- 釜石魅力発見！弾丸ツアー(釜石大観音、ゲストハウスあずま家、鉄の歴史館、
三陸鉄道、釜石鶴住居復興スタジアム、根浜海岸など)※大学生のみ
- 出張！釜石学&釜石ラグビーを盛り上げる活動
(鶴住居地区生活応援センターとその周辺)※大学生のみ
- “よいさ”で出店を出そうー障がいのある方々との交流ー
(グループホームくろーばー、しゃくなげ愛育園、創作農家こすもす、
釜石よいさ会場など)※大学生のみ
- 「釜石よいさ」スタッフとして活動(釜石よいさ会場)※大学生のみ

ー「釜石よいさ」への参加

ー活動②(3つの活動から1つ選択)

- 復興公営住宅の方々との花植えと交流会(県営嬉石第1アパート)
- 命をつなぐレンジャーショー&防災工作(いのちをつなぐ未来館)
- 「原木しいたけ再生プロジェクト」のお手伝い

ー旧大川小学校フィールドワークと「未来をひらく」話し合い

(旧大川小学校、石巻・川のビジターセンター)

ー活動のふりかえり(8/4夜、帰りのバス内)

- ・参加者数：聖学院大学 学生21名、教員5名、職員7名、カメラマン1名
聖学院高等学校 生徒9名
自由の森学園高等学校 生徒9名、教員1名 合計53名

③ ツアー実施ふりかえり

ツアー実施に向けた企画の段階からツアーの総括として、各校のプロジェクトリーダー

と3校の教職員とともに振り返りの時をもちました。

日時：8月20日(火)13:30～16:30

(3) 担当部門

担当部署：ボランティア活動支援センター

4-2 高大連携授業

(1) 活動の目的と経緯

高大連携の一環として、関わりの深い高等学校生徒に対し、学内で大学教員による講義を行いました。クラーク記念国際高校とは、2018年度より、近隣の地域及び埼玉県という地元で活躍できる人材の育成と、両者の知的資源等のリソースの活用によって当該地域における社会貢献に寄与することを目的に連携が始まり、学内授業を開始しました。2019年度は高大接続授業を受けて入学に結びついた生徒もいました。



クラーク記念国際高等学校の生徒さんを対象とした授業の様子

(2) 活動内容と実績

クラーク記念国際高等学校さいたまキャンパス保育・福祉専攻

前期 受講生：25名

- ① 5月20日 相川徳孝「遊びを支える教師・保育者の役割」
- ② 5月27日 田澤薫「絵本から児童文化財につながる”行きて帰りし”」
- ③ 6月3日 寺崎恵子「赤ちゃんコトバの不思議」
- ④ 6月10日 野村春文「障害のある子どもたちの理解と支援」
- ⑤ 6月17日 松本祐子「エヴリディ・マジックの世界：子どもの部屋に現れた魔法使い・メリーポピンズ」
- ⑥ 6月24日 丸山綱男「体験する・考える保育内容『環境』」
- ⑦ 7月22日 図書館「ビブリオバトル」
- ⑧ 9月2日 真野和英「AIに負けない、まあるいアタマ」
- ⑨ 9月30日 川田虎男「ボランティアについて考える」

後期 受講生：27 名

- ① 10 月 7 日 長谷部雅美「ソーシャルワーカーを知ろう！」
- ② 10 月 21 日 猪瀬桂二「障害者の地域生活とその支援（知的障害者のグループホームでのくらしを中心に）」
- ③ 10 月 28 日 金谷京子「心の不思議」
- ④ 11 月 18 日 西村洋一「対人関係を科学するー社会心理学入門」
- ⑤ 11 月 25 日 小沼聖治「誰もが住みやすいまちづくりについて考えてみようーソーシャルアクションの視点からー」
- ⑥ 12 月 2 日 堀恭子「聴くということ」
- ⑦ 12 月 9 日 相川章子「精神保健福祉教育とピアサポート」
- ⑧ 1 月 20 日 萩野紀之「SDG s とソーシャルビジネスのビジネスモデル」
- ⑨ 1 月 27 日 川田虎男「ボランティア論 ～ボランティアの可能性を考える①～」
- ⑩ 2 月 3 日 川田虎男「ボランティア論 ～ボランティアの可能性を考える②～」

(3) 担当部門

担当部署：アドミッション課

4-3 ボランティア関連授業を通じた小中高大連携

(1) 活動の目的と経緯

2015 年 3 月 11 日に聖学院中学高等学校生徒会企画の「2015.3.11 いま僕たちにできること」への運営協力がきっかけとなり、学生が次世代(高校生)に東日本大震災を語り継ぐプロジェクトを実施しています。2019 年度においては、小中学生に向けた防災授業にも取り組みました。



聖学院中学校で生徒の輪に加わり自らの活動について語る学生

(2) 活動内容と実績

日にち	場所	実施内容	実施体制
2019 年 9 月 3 日(火)	聖学院小学校	ボランティア実践論受講生企画による小学 5 年生を対象とした防災授業	学生 6 名 同行： 教員 1 名、 職員 2 名

2020 年 1 月 27 日(月)	聖学院大学	クラーク記念国際高等学校保育・福祉専攻の生徒を対象にボランティア活動への理解を深める授業を実施	職員 1 名
2 月 3 日(月)	聖学院大学	クラーク記念国際高等学校保育・福祉専攻の生徒を対象に岩手県金石市での取り組みを紹介	学生 2 名 職員 1 名
2 月 12 日(水)	聖学院中学校	ボランティア活動経験のある学生たちが、各教室の各グループに分かれて生徒の輪に加わり、自らのボランティア活動の経験とまちとの関わりを語り、その後学生の進行で生徒と意見交換を行った。	学生 16 名 職員 2 名
2 月 26 日(水)	聖学院中学校	東日本大震災復興支援活動や防災活動経験者、被災経験者による中学 1 年生を対象とした防災授業	学生 7 名 職員 2 名

(3) 担当部門

担当部署：ボランティア活動支援センター

4-4 その他の学校間連携

(1) 埼玉県立上尾橋高等学校就業体験受入れ

上尾橋高校から依頼を受けて、「高校生就労体験活動プログラム」の受け入れ先として、2019 年 11 月 7 日(木)～12 日(火)の 4 日間、1 名の生徒の受け入れを行い、大学職員の仕事についての学びの場を提供しました。



中学生による大学体験の様子

(2) 上尾市立南中学校大学体験 「聖学院大学のキャリア教育」

上尾市立南中学校より中学生に学生生活を紹介するプログラムを実施してほしい旨の依頼があり、近隣の中学生に聖学院大学キャンパス紹介と大学生活(就職情報含む)を紹介するパネルディスカッション及びキャンパスツアーを実施しました。

日 時： 9 月 2 8 日（土） 10:30～12:40

会 場： 聖学院大学 7401 教室

参加者： 上尾市立南中学校生徒 4 2 名、保護者 1 名、引率指導教諭 6 名

（3）担当部門

担当部署： 管理部総務課

協力： 学務部キャリアサポート課

5.教職員と学生による地域活動

5-1 バッファローあげお（八木規子ゼミ：組織行動論）

（2）活動の目的と経緯

最近上尾市に住む外国人の数が急増しており、それに対応するために上尾市ではさまざまな支援活動を展開しています。しかし、これらの活動への外国人の参加は少数にとどまると聞き、その理由を明らかにし、どのようにすれば外国人に対して役に立つものとなるか、調査研究を行いました。



学内で活動報告を行う学生たち

（3）活動内容と実績

以下のスケジュールで調査研究を行いました。

- ①上尾市の多文化共生施策について上尾市市民協働推進課本多氏へのヒアリング
日にち： 6月14日
- ②団地の自治会活動について上尾市尾山台団地自治会長尾上氏にヒアリング
日にち： 7月19日
- ③ゼミ内でインタビュー項目、インタビュー実施方法を検討
期間：10月
- ④上尾市国際交流協会（AGA）日本語教室に通う外国人へのインタビューの日程調整
日にち： 10月29日、30日
- ⑤上尾市国際交流協会（AGA）日本語教室に通う外国人へのインタビュー
期間： 11月 インタビュー人数：11名
- ⑥ゼミ内で調査結果の報告と共有
期間： 12月
- ⑦報告書の作成
発行日：2020年3月

（4）担当部門

担当部門：政治経済学部政治経済学科

担当教員名：八木規子教授

➤ 5-2 フェアトレードチーム「empower」(M.サベットゼミ：国際理解)

(1) 活動の目的と経緯

フェアトレードの仕組みを知ってもらうと共に、バングラディッシュやネパールで働く女性や子どもたち、発展途上国で暮らす「取り残された人々」への支援を行っています。

(2) 活動内容と実績

特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会の協力のもと、フェアトレードの周知活動と商品の

販売に取り組み、10月6日(日)に開催された「あげおワールドフェア 2019」(主催：上尾市国際交流協会)での出展に続き、翌月11月1日(金)～2日(土)に行われた本学学園祭「ヴェリタス祭」においてもフェアトレード商品の紹介と販売を行いました。

(3) 担当部門

担当部門：人文学部欧米文化学科

担当教員名：M.サベット教授



あげおワールドフェアでフェアトレードの周知活動と販売に取り組む学生たち

➤ 5-3 アッピー応援隊（金谷京子ゼミ：発達心理）

（１）活動の目的と経緯

2014 年より、NPO 法人 AGETTO の依頼を受けて、上尾市のゆるキャラ「アッピー」を上尾市内の保育所・幼稚園の子どもたちに親しんでもらうこと、学生が、保育所・幼稚園の子どもたちと交流し子どもたちに喜びを届けることを目的として活動を行っている。



保育園での活動の様子

（２）活動内容と実績

2019 年度は下記 3 か所の保育所で活動を行いました。活動内容としては、上尾市のゆるキャラ「アッピー」とともに保育所を訪問し、大型絵本の読み聞かせ、手あそびうた、じゃんけん列車などを行いました。

- ①大谷保育所 日にち：6 月 13 日 活動人数：6 人
- ②あたご保育所 日にち：10 月 30 日 活動人数：5 人＋児童学科学生約 3 名
- ③畔吉保育所 日にち：11 月 27 日 活動人数：6 人

（３）担当部門

担当部門：人間福祉学部こども心理学科／心理福祉学部心理福祉学科

担当教員名：金谷京子特任教授

5-4 パワフルキッズ（金谷京子ゼミ：発達心理）

（１）活動の目的と経緯

埼玉県から依頼を受け、一般社団法人すくすく広場、シラコバト団地自治会と連携し、上尾市にある県営上尾シラコバト団地の活性化につながる子どもたちのあそび場の提供を行っています。七夕やハロウィンなど季節にあわせたイベントを継続して実施しています。



ハロウィンイベントの様子

（２）活動内容と実績

2019 年度は、七夕イベントとハロウィンイベント、クリスマスイベントを下記の通り実施しました。

①七夕イベント 日にち：7月6日（土）

こども・親参加者：6名、ほか住民の方：3名、ボランティア：13名

②ハロウィンイベント 日にち：10月26日（土）

こども・親参加者：16名 ボランティア：10名

③クリスマスイベント 日にち：12月7日（土）

こども・親参加者：13名 ボランティア：14名

（３）担当部門

担当部門：人間福祉学部こども心理学科／心理福祉学部心理福祉学科

担当教員名：金谷京子特任教授

5-5 地域の福祉施設×福祉を学ぶ学生との交流事業 (小沼聖治ゼミ：生活支援論)

(1) 活動の目的と経緯

ゼミのフィールドワーク企画の一環として、医療法人大社会地域活動支援センター「ベルベッキオ」(さいたま市)と連携し、精神障がいを抱えつつも自己実現を目指して努力されている利用者や職員の方々と交流できる場づくりに学生発案で取り組んでいます。精神障がいを抱える方々との交流を通じて、学生たちが障がいへの理解を深めること、メンバーさんの社会参加への一歩を応援することを目的としています。



クリスマス会の様子

(2) 活動内容と実績

今年度は、12月22日(土)に医療法人大社会地域活動支援センター「ベルベッキオ」を会場にクリスマス会を実施しました。午前中は、自己紹介を行った後、利用者の方々と買い出しと会場の装飾を行い、午後は、昼食会とゲーム企画、談話会を通じて施設の利用者や職員の方々と交流を深めました。

施設利用者：11名、職員：5名、学生10名

(3) 担当部門

担当部門：心理福祉学部心理福祉学科

担当教員名：小沼聖治助教

5-6 地区社会福祉協議会×福祉を学ぶ学生との交流事業 (小沼聖治ゼミ：生活支援論)

(1) 活動の目的と経緯

ゼミのフィールドワーク企画の一環として、さいたま市西区社会福祉協議会と指扇地区社会福祉協議会と連携し、学生発案で民生委員や施設職員、社協職員の方々との意見交換会を行い、地域福祉への理解を深めました。実施にあたっては西区社会福祉協議会に内容の検討から当日の進行について全面的な協力をいただきました。



ワークショップの様子

(2) 活動内容と実績

日時：2020年2月28日(金)

場所：さいたま市指扇公民館

参加者：学生10名、教職員3名 ※長谷部雅美ゼミ（高齢者福祉論）も参加
地区社協役員、地区内福祉施設職員、市社協職員

内容：・指扇地区社協会長あいさつ

・講義「社会福祉協議会についての理解」

講師：さいたま市西区社会福祉協議会 神原氏

・ワークショップ「地域から孤立をなくすためにできること」

進行：さいたま市社会福祉協議会 塩澤氏

①どんな「孤立」がある

②「孤立」していない状況や地域って？

③「孤立」をなくす、へらすには、何があればいい？

④それには何かできることは？

・グループ発表

(3) 担当部門

担当部門：心理福祉学部心理福祉学科

担当教員名：小沼聖治助教

5-7 福祉教育について考える会こころの輪「ここ輪」 (相川章子ゼミ：精神保健福祉論)

(1) 活動の目的と経緯

「こころの輪（通称：ここ輪）」は、本学で精神保健福祉を学ぶ在校生や卒業生が所属し、精神保健福祉領域における福祉教育活動を行っています。

「みんなで学ぼうメンタルヘルス、共に学ぼうリカバリーストーリー」を合言葉に、当事者の方々と一緒に学ぶことを大切にしながら、「誰もが住みやすい地域にしていこう」を目指して活動しています。



精神疾患について説明するここ輪のメンバー

(2) 活動内容と実績

2019年10月19日（土）、伊奈町人権講座「発達障害と共に生きる～心を伝える～」において、精神障がい者への理解を広める発表と当事者の方によるリカバリーストーリー「精神障害のある人が、それぞれ、自分が求める生き方を主体的に追求する物語」を語られました。当日は50名程の来場者があり、会場からは多くの質問が寄せられ、活発な意見交換も行われました。

(3) 担当部門

担当部門：心理福祉学部心理福祉学科

担当教員名：相川章子教授

5-8 子ども大学 あげお・いな・おけがわ

(1) 活動の目的と経緯

埼玉県教育局、上尾市教育委員会、桶川市教育委員会、伊奈町教育委員会、日本薬科大学と本学で組織された子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員会の主催で実施しています。3市町の異なる学校から参加する小学5・6年生の子どもたちが大学のキャンパスで学ぶ子どものための大学で、教員が本学の特色を生かした学びをわかりやすく教えています。



本学での講義の様子

(2) 活動内容と実績

令和元年度「子ども大学 あげお・いな・おけがわ」は下記の日程で行われ、6月22日（土）、7月27日（土）の2日間のプログラムについては本学のエルピスホールを会場に実施されました。

- ①第1日（入学式）：6月22日（土）／聖学院大学（上尾市）／参加者 56 名
- ②第2日：7月13日（土）／日本薬科大学（伊奈町）／参加者 56 名
- ③第3日：7月27日（土）／聖学院大学（上尾市）／参加者 46 名
- ④第4日：8月21日（水）／株）埼玉新都市交通（伊奈町）／参加者 51 名
- ⑤第5日（発表会・修了式）：9月7日（土）／日本薬科大学（伊奈町）／参加者 51 名

本学で行われた内容としては、以下の通りです。

- ①第1日：6月22日（土）13：00～15：20

「友だち 100 人できるかな？ ～コミュニケーション力アップのための心理学～」

講師：金谷京子特任教授（心理福祉学部 心理福祉学科）

- ③第3日：7月27日（土）13：00～15：50

「わたしの物語とみんなの物語を体験しよう ～みんな違う物語を持ちながら、ひとつの物語を生きている～」 講師：大橋良枝教授（心理福祉学部 心理福祉学科）

(3) 担当部門

担当部門：地域連携・教育センター

担当教員名：氏家理恵教授（実行委員長）、松井慎一郎教授（実行委員）

5-9 特別県営上尾シラコバト住宅の共助による活性化推進

(1) 活動の目的と経緯

高齢化が進む古い団地の活力を向上させるため、団地の一部を学生と子育て世帯向けの部屋に改修し、若い世代が入居するという埼玉県住宅課のモデル事業の一環として、本学の学生が県営シラコバト住宅に入居しながら自治会活動等を通じてコミュニティの活性化に取り組んでいます。



餅つき大会の様子

(2) 活動内容と実績

2019年3月末時点で、4名の学生が入居しています（留学生4名）。2019年度学生たちは以下の活動に取り組みました。

① 各棟での清掃活動への参加

入居学生は各棟で定められた清掃活動に参加している。清掃活動は各棟の入居者による当番制となっています。

② シラコバト住宅自治会主催 芋煮会と餅つき大会

シラコバト住宅自治会が主催する芋煮会と餅つき大会が2019年11月3日（日）に同時開催された。本学より学生2名 職員1名が大会の準備と運営を手伝い、好評であった。

③ コミュニティスペース ミラコバトでの子育て支援ボランティア

2017年3月20日（月・祝日）に特別県営上尾シラコバト住宅のなかに「コミュニティスペース ミラコバト」が開設されたことを受けて、人間福祉学部こども心理学科／心理福祉学部心理福祉学科金谷京子特任教授による以下の子育て支援のプログラムが実施され、本学の学生（入居学生含む）が参加している。

i) 2019年7月6日（土）七夕イベント

ii) 2019年10月26日（土）ハロウィンイベント

iii) 2019年12月7日（土）クリスマスイベント（自治会との共催）

(3) 担当部門

担当部署：地域連携・教育センター

5-10 さいたま KI-TA まつり

(1) 活動の目的と経緯

「さいたま KI-TA まつり」は、さいたま北商工協同組合を中心にした、KI-TA まつり実行委員会が、2011 年から毎年 10 月の日曜日に、宮原駅西口ロータリーで開催しています。本学も実行委員として関わり、地元の方々とともに地域の活性化に取り組んでいます。



福祉施設の販売補助を行う学生たち

(2) 活動内容と実績

10 月 20 日（日）に「さいたま KI-TA まつり 2019」が開催され、50 名近くの学生が参加しました。ボランティアの学生たちは、朝 7 時に集合し、テントの設営など会場準備を行い、10 時から 15 時半の開催時間帯は、交通整理、ゴミブースでのゴミの分別、福祉施設の販売補助、アンケート調査などを行いました。イベント終了後はテントの撤収、テーブル・イスなどの運搬も行いました。また、留学生たちは、ベトナム料理と飲み物のブースを出店しました。イベント前日に丸一日かけて準備し、おそろいの青い T シャツで元気良く販売し、完売しました。

(3) 担当部門

担当部署：地域連携・教育センター

協力：留学生センター

担当教員名：平修久教授、若原幸範准教授

5-11 大谷地区自主防災啓発事業

(1) 活動の目的と経緯

上尾市大谷支所と連携し、大谷地区の自主防災会でリーダーを担っている地域の方々と学生がともに防災について学び、自主防災意識の向上を図るために実施しています。

(2) 活動内容と実績

2019 年度は下記の通り自主防災啓発事業を実施しました。今年度は、大谷地区自主防災組織連合会よりご提案

いただき、地元大谷地区のフィールドワークも開催されました。

①学生対象フィールドワーク

日 時：2019 年 12 月 7 日（土）9：00～11：00

主 催：大谷地区自主防災組織連合会、聖学院大学ボランティア活動支援センター

参加者：区長・防災士・市職員・・・3 名

聖学院大学学生…5 名 聖学院大学職員…1 名 合計 9 名

実施内容：大谷地区自主防災組織連合会会長と大谷地区の防災士のご案内で、復興支援活動や防災活動に取り組む学生たちが、大学周辺地域の中でどのような災害が起こり得るのか、それに対してどのような対策ができるのかという視点で大谷地区内を見て回りました。

②活動報告とグループワーク

日 時：2019 年 12 月 14 日（土）14：00～16：15

場 所：大谷公民館

主 催：大谷地区自主防災組織連合会、聖学院大学ボランティア活動支援センター

参加者：区長・区長代理・防災士・市職員・・・34 名

聖学院大学学生…7 名 聖学院大学職員…1 名 合計 42 名

実施内容：

≪第 1 部≫全体会議・グループワーク「大谷地区の防災力向上について」

進行：田中繁夫氏（大谷地区自主防災組織連合会会長）

≪第 2 部≫活動報告等

i) 「釜石の復興状況と SAVE の活動報告」人間福祉学科 3 年 布川泰樹

ii) 「仙台の復興状況と STEP の防災活動」こども心理学科 3 年 松本一帆



グループワークの様子

- iii)『防災戦隊マモルンジャー「地域の防災意識の向上」』心理福祉学科2年 玉之内菖
- iv)「台風19号被害と復旧ボランティア活動報告」心理福祉学科2年 菅野稜真
- v)「防災士による活動報告」上尾市大谷地区内防災士

(3) 担当部門

担当部署：地域連携・教育センター

5-12 ほたる祭り

(1) 活動の目的と経緯

本学では 1960 年代まで大学周辺に棲息し身近に親しまれていたほたるの再生に取り組んでいます。大学内で自生するほたる(*)は他に例がなく、2004 年に「ほたるのビオトープ～ひかりのせせらぎ～」が完成して以来、ほたるが飛翔する季節に合わせてほたる祭り実行委員会主催の「ほたる祭り」を開催しています。



ホタル観賞会の様子

*「大学内で自生するほたる」とは、学内に整備しましたほたる用のせせらぎで、卵から誕生した幼虫が約 10 か月水中で成長し、5 月の連休の前後にせせらぎから上陸して土手にもぐり、約 1 か月さなぎとしてすごした後に、羽化して成虫になったことを意味しています。

(2) 活動内容と実績

2019 年度は下記の通り「ほたる祭り」を実施しました。

第 16 回ほたる祭り

日時：2019 年 6 月 8 日（土）18:00～20:30（ホタル観賞会は 19:30 前後から）

会場：聖学院大学 4 号館 1 階・図書館前・8 号館南側「ひかりのせせらぎ」

実施内容：ホタル観賞会、模擬店、子ども遊びコーナー、演劇部による朗読劇など

来場者：約 300 名

(3) 担当部門

担当部門：ほたる祭り実行委員会、ボランティア活動支援センター

担当教員名：平修久教授

5-13 復興支援ボランティアスタディツアー

(1) 活動の目的と経緯

聖学院大学では「神を仰ぎ 人に仕う」という建学の精神に基づき、東日本大震災直後より様々な支援活動を展開してきました。9年の時の流れと共に、現地のニーズも変化しており被災地に寄り添う息の長い活動が求められており、大学としても釜石市との協定締結（2014年1月29日）を踏まえて継続的な支援を行っていきたいと考えています。



「よいさっ！プロジェクト6」釜石よいさ参加の様子

(2) 活動内容と実績

2019年度は3回スタディツアーを実施しました。

①桜プロジェクト8

ツアー日程：2019年4月20日(土)朝～21日(日)夕方 現地集合・解散

活動場所：岩手県釜石市

活動内容：清香園の山田寅幸氏との連携による盆栽講座の実施、盆栽桜の植樹、
鵜住居駅周辺施設の見学、「原木しいたけ再生プロジェクト」のお手伝いなど

参加者数：学生6名、教員3名、職員3名

②よいさっ！プロジェクト6

ツアー日程：2019年8月2日(金)朝～5日(月)夜

活動場所：岩手県釜石市、宮城県石巻市

活動内容：被災地見学、地元の方のお話、魅力発見ツアー、出張！釜石学&釜石ラグビーを盛り上げる活動、障がいのある方々や復興公営住宅の方々との交流、「釜石よいさ」への参加（踊り手参加、スタッフ協力、障害者福祉施設が出店する模擬店のお手伝い）、命をつなぐレンジャーショー&防災工作、旧大川小学校フィールドワークと「未来をひらく」話し合いなど

参加者数：学生21名、教員5名、職員7名、カメラマン1名

（聖学院高等学校：生徒9名、自由の森学園高等学校：生徒9名、教員1名）

③サンタプロジェクト9

ツアー日程：2019年11月29日(金)夜～12月1日(日)夜

活動場所：岩手県釜石市

活動内容：被災地見学、現地の方々との郷土料理づくり、釜石原木椎茸再生プロジェクトのお手伝い、釜石の今を知るフィールドワーク、釜石市鶴住居地区主任児童委員の市川淳子さんのお話、こどもクリスマス会、など

参加者数：学生27名、教員4名、職員4名

(3) 担当部門

担当部署：ボランティア活動支援センター

5-14 ボラフェス！

(1) 活動の目的と経緯

日頃学生がボランティア活動でお世話になっている福祉作業所や卒業生が働く福祉作業所の取り組みや製品を学生や教職員、地域の方々に紹介することを主な目的として実行委員会主催のフェスティバルを実施しています。



「ボラフェス！」会場の様子

(2) 活動内容と実績

日時：2019年11月1日(金)、2日(土)

両日とも 10:00～15:00 ヴェリタス祭内にて開催

会場：エルピス食堂と食堂前の芝生エリア

来場者数：1日目：223名 2日目：756名 合計 979名

学生実行委員：3名

当日ボランティア：6名

実施内容：福祉施設等の活動紹介と商品販売、こども遊びコーナー、ボラフェス実行委員とボランティアアソシエーション・グレイスによる焼きそば販売

参加団体：NPO法人リトルポケットあとりえふぁんとむ

社会福祉法人あらぐさ福祉会労働と教育の場「雑草（あらぐさ）」

認定NPO法人彩の子ネットワーク

医療法人 大社会 地域活動支援センター「ベルベッキオ」

社会福祉法人あげお福祉会 多機能型事業所プラスハート

社会福祉法人一麦福祉会 ワークスみぎわ

NPO法人みのり、第2川越いもの子作業所

NPO法人みやはら福祉会ひびき、生活介護施設とさき

マゴススクールを支える会、empower（欧米文化学科サベットゼミ）

(3) 担当部門

担当部門：ボラフェス実行委員会・ボランティア活動支援センター

担当教員名：相川章子教授

5-15 聖学院大学総合図書館による地域連携活動

(1) 活動の目的と経緯

総合図書館の活動テーマの一つに「リエゾン」(連携)というキーワードがあり、教員・職員・学生だけでなく、地域社会との連携を推進する活動を積極的に行っています。

(2) 活動内容と実績

①図書館の市民(高校生・一般)への開放

- ・総合図書館では、18歳以上あれば、どなたでも利用者登録を行って図書館を利用できます。(ただし、他大学の学生・院生の方は、利用者登録はできませんが、所属大学の紹介状と利用者証または埼玉県大学・短期大学図書館共通閲覧証を持参いただければ利用が可能です。)また、高校生に関しても、土曜日と閉講期間中の平日の開館日は館内閲覧等の利用が出来るようになっていきます。

②ビブリオバトルの開催

- ・全国大学ビブリオバトルの地区予選会や地区決戦を主催、関東圏の大学生や大学院生に参加いただいています。
- ・人文学部主催の「第4回高校生ビブリオバトル・ワークショップ」の運営に協力をして、ビブリオバトルをとoshした高校生との交流や読書推進活動を行っています。

③公開イベント in OKEGAWA hon プラス+の実施

- ・JR桶川市駅前にあるおけがわマイン3階のOKEGAWA hon プラス+にて、公開イベントを開催しています。学生ボランティアと連携した読書イベント、本学教員による講演会などを開催しました。

④「図書館と県民のつどい埼玉」への参加

- ・埼玉県図書館協会等主催が毎年12月に開催している「図書館と県民のつどい埼玉」の大学図書館部会の合同展示で、本館の特色ある資料の公開をしております。同会場で行われる「中学生ビブリオバトル」の予選会を11月に本学で開催したほか、12月に行われた決勝の運営に協力をしています。

⑤埼玉県大学・短期大学図書館協議会(SALA)による連携

- ・SALA設立時から運営に参画し、幹事館として幹事会運営に参加しています。SALAをとoshして、埼玉県内の大学、短期大学、研究機関等加盟機関と連携をしています。2019年12月6日、本学を会場にSALA第31回研修会が開催されました。



桶川市の OKEGAWA hon プラス+で本学教員の講演会を開催

⑥県内図書館に勤務する卒業生との連携

- ・図書館情報学課程と連携をして、県内で司書として活躍する卒業生 2 名を招いてトークセッションを行いました。参加した学生は、在学中の大学での学びや図書館業務の実務について理解を深めました。

(3) 担当部門

担当部門：学術支援部司書課

5-16 釜石フェスティバル

(1) 活動の目的と経緯

2014年1月29日に締結した、聖学院大学と釜石市の連携協定に基づき、埼玉県内において釜石の魅力発信の機会とすると共に、聖学院大学の復興支援活動や釜石との関わりを通してできた繋がりや学びについて、学内外の方々に知っていただく機会として、釜石市との共催で当フェスティバルを実施しました。2015年に初めて実施して以降2回目の開催となりました。



パネルディスカッションの様子

(2) 活動内容と実績

日時：2019年11月1日(金)、2日(土) 両日とも 10:00～15:00 ヴェリタス祭内にて開催

会場：チャペル（講演会）・2号館前スペース（模擬店）・2303教室（活動展示）

来場者数：1日目：展示24名／釜石ラーメン100食販売

2日目：講演会約120名／展示(ミニトーク参加者含む)50名／

釜石ラーメン150食販売

学生実行委員：22名

運営ボランティア：卒業生12名

実施内容：展示、模擬店・物産販売、釜石ミニトーク「釜石の魅力」、浜辺の料理宿「宝来館」女将岩崎昭子氏による講演会「生き続けるということ～宝来館女将が語る釜石のあの日・今・未来～」と学生実行委員を交えたパネルディスカッション

(4) 担当部門

担当部門：釜フェス実行委員会／地域連携・教育センター／ボランティア活動支援センター



5-17 釜石市保育士インターンシップ

(1) 活動の目的と経緯

2014 年 1 月 29 日に締結した、聖学院大学と釜石市の連携協定に基づき、釜石市より、「市の保育士が減少傾向にあり、保育専攻の学生に釜石市での就職を検討いただきたい。」という相談があり、総務企画部 総合政策課と保健福祉部子ども課との連携し、今年度新たに釜石市内の保育園で保育専攻の学生が希望制でインターンシップを行うことができるツアーを実施しました。

(2) 活動内容と実績

期間：2019 年 8 月 6 日（火）～8 日（木）

受入先：釜石市立上中島こども園、社会福祉法人愛泉会 かまいしこども園、
平田こども園

参加学生：3 名

実施内容：8 月 6 日(火)、7 日(水)の 2 日間、釜石市内のこども園にて、実際に保育士の就業体験を行い、7 日(水)の夜には活動報告会が開かれました。

(4) 担当部門

担当部門：地域連携・教育センター

5-18 あげお子ども大学

(1) 活動の目的と経緯

上尾市教育委員会による「あげお子ども大学」は上尾市内の小学校に通う5・6年生の子どもたちを対象に、それぞれ特色ある3つの分野を学ぶ連続3回の講義から構成されているプログラムです。大学の先生や様々な分野の専門家からわかりやすく物事を学ぶ「子どものための大学」です。計3回の講座のうち、3日目の11月16日

(土)に開催された講座を本学が担当しました。「国際交流」や「異文化コミュニケーション」をテーマに本学の教員と留学生8名

(5か国)が本学の特色を活かした学びのプログラムを本学で実施しました。



子どもたちに各国の挨拶を紹介する学生たち

(2) 活動内容と実績

本学で行われた内容としては、以下の通りです。

2019年11月16日(土) 13:00～15:00

「遊びで世界を旅しよう！～あなたの国の遊びを教えてください～」

講師：ロバート ローランド 欧米文化学科助教

留学生チーム：

AWANDU DORICE AWINO アワント・ウドリ ス・アウノ (ケニア共和国)

MUKHERJEE ANUP KUMAR ムカジャ・アヌプ・クマル (インド共和国)

RAI PRAMILA ライ・パルミラ (ネパール連邦民主共和国)

POUDEL RAHUL パウデル・ラヒュル (ネパール連邦民主共和国)

SUBEDI DEEPAK スベディ・ディパク (ネパール連邦民主共和国)

DOAN THI MY LINH ドアン・ティ・ミンリン (ベトナム社会主義共和国)

VU THI HONG NHUNG ヴー・ティ・ホン・ニュン (ベトナム社会主義共和国)

NORD ALISS THERESIA ノルト・アリス・テレシア (スウェーデン王国)

(3) 担当部門

担当部門：学務部学生課

担当教員名：村瀬天出夫 欧米文化学科准教授

6.公開講座

6-1 聖学院大学公開講座

(1) 活動の目的と経緯

大学では、さいたま市教育委員会・上尾市教育委員会と共催して、聖学院大学公開講座を実施しています。大学の持つ機能を地域に開放し、地域と大学の連携を図るとともに、市民の高度かつ専門的な学習意欲にこたえるため、また、生涯現役であり続けたい方や社会人としての知識やスキルを高めたい方、豊かな教養を身につけたい方を対象に「人生100年時代」に向けた社会人教育を行っています。

(2) 活動内容と実績

内容としては、第一講（教養講座）「地域社会/国際社会における多様性（ダイバシティ）」、第二講座「役に立つ英会話講座」、第三講座「パソコン講座」、第四講座「女声コーラス」、第五講座「初級手話講座」の5講座があります。

①受講期間：2019年5月11日～7月13日までの毎土曜日（10回）

②講座内容と講師：

第一講座「地域社会/国際社会における多様性（ダイバシティ）」 定員：40名

講師：高橋愛子教授 八木規子准教授 金子毅准教授 平修久教授 若原幸範准教授
竹井潔准教授 猪狩廣美教授 土方透教授 宮本悟教授 石川裕一郎教授

第二講座「役に立つ英会話講座」 定員：30名

講師：J.ナイチンゲール R.ローランド

第三講座「パソコン講座」 定員：40名

講師：埼玉 SOHO（NPO 法人）所属講師

第四講座「女声コーラス」 定員：80名

講師：藤田明

第五講座「初級手話講座」 定員：30名

講師：サインズミッション所属講師

③受講人数：219名

(3) 担当部門

担当部署：管理部総務課

6-2 履修証明プログラム

(1) 活動の目的と経緯

大学等では、これまでも科目等履修生制度や公開講座等を活用して、その教育研究成果を社会へ提供する取組が行われてきましたが、より積極的な社会貢献を促進するため、学生を対象とする学位プログラムの他に、社会人等の学生以外の者を対象とした一定のまとまりのある学習プログラム（履修証明プログラム）を開設し、その修了者に対して法に基づく履修証明書（Certificate）を交付できることになりました。（法第 105 条等）。本学でも、2016 年度より、履修証明プログラムを開設しています。

(2) 活動内容と実績

2019 年度は以下の 3 つのプログラムが設定されていますが、受講生は 0 名でした。

①「グローバル世界の文化的諸相」プログラム

現代の国際社会ではいわゆるグローバル化が進んでいるが、文化的側面においてもその影響が見られる。情報・財・人の交流が激しくなり、文化状況は一国単位で語ることが難しくなっている。日常生活の規範としての倫理もまたグローバル世界における多文化共生を視野に入れたものへの変容を迫られつつある。そのようなグローバル世界成立の歴史的端緒、映像など表象文化におけるグローバル的側面、グローバル的多文化状況に対する倫理的対応などを学ぶ。

②「基礎から学べる英語」プログラム

このプログラムは英語を基礎から復習し、資格試験の受検準備をしたい人を対象に開設されるものである。基礎から学び直したい場合は TOEIC(初級)からの履修が望ましい。TOEIC(中級)、Speech & Debate の履修を希望する場合は、TOEIC 350 点以上を取得していることが履修条件となる。授業ではペアやグループでの活動もあるので積極的な参加が求められる。また、中間試験や期末試験以外にも単語の小テストや課題などが課されるので、授業以外に予習・復習が必要である。

③「福祉横断」プログラム

このプログラムは、社会福祉の制度・政策を学びたい人を対象に開設されたものである。社会福祉の制度は、われわれが安心して生活を送るために、世代を超えて普遍的に必要とされるものである。しかし、制度は年々複雑化しているためそれぞれの制度の内容を理解することは難しい。このプログラムでは、複雑に入り組んだ現在の日本の福祉制度を網羅的に学び、日本の福祉制度・政策の全体像と各制度の具体的内容を学ぶ。

(3) 担当部門

担当部署：教務課



6-3 社会人を受け入れる教育プログラム

(1) 活動の目的と経緯

聖学院大学では、社会人の学びの機会として「社会人入学制度」「科目等履修生制度」「聴講生制度」を定めています。科目等履修生は、大学において授業を受けた学生同様試験をクリアすることで単位の修得が可能です。単に修得は希望せず、授業のみを受講されたい方には、聴講生としてご利用いただくことができます。その他に埼玉県と連携した大学の開放授業講座（リカレント教育）も行っています。

(2) 活動内容と実績

①社会人入学制度

i) 出願資格

社会的経験(正社員、自営業従事者、契約社員、長期アルバイト、主婦)を有する者で、各学科が求める学生像に適し、下記のいずれかに該当する者。

- ・高等学校を2013年3月31日以前に卒業した者。
- ・通常の課程による12年の学校教育を2013年3月31日以前に修了した者。
- ・高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると2013年3月31日以前に認められた者。

②科目等履修生制度・聴講生制度

i) 入学資格

- ・高等学校を卒業した者、または通常の課程による12年の学校教育を修了した者
- ・高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者

ii) 審査方法：書類審査

iii) その他»

- ・科目等履修生・聴講生は聖学院大学総合図書館を利用することができます。
- ・科目等履修生・聴講生ともに履修できる科目数および単位数は、原則として1学期4科目12単位までとなります。

③リカレント教育

埼玉県内在住の55歳以上の方を対象に、生活の充実や社会参加のきっかけづくりとして、埼玉県内の22大学と埼玉県が連携して授業科目の一部を開放しています。一般の学生と一緒に学びますが、単位の認定はありません。

(3) 担当部門

担当部門：教務課

7.地方自治体の委員会・審議会等の委員

※本内容は聖学院大学ホームページ「教員情報」<https://www.seigakuin.jp/about/faculty/>に2020年6月1日時点で掲載されている情報を元に作成しています。

氏名	所属	職名	委員名(日本語)
清水 正之	人文学部 日本文化学科	学長 教授	さいたま大学コンソシアム委員
石川 裕一郎	政治経済学部 政治経済学科	教授	上尾市人権施策推進協議会
石川 裕一郎	政治経済学部 政治経済学科	教授	上尾市男女共同参画審議会
平 修久	政治経済学部 政治経済学科	教授	上尾市総合計画審議会
平 修久	政治経済学部 政治経済学科	教授	吉川市市民参画審議会
平 修久	政治経済学部 政治経済学科	教授	八潮市市民活動推進委員会
平 修久	政治経済学部 政治経済学科	教授	彩の国NPO・大学ネットワーク 会長
平 修久	政治経済学部 政治経済学科	教授	上尾市街づくり推進会議 会長
竹井 潔	政治経済学部 政治経済学科	教授	上尾市協働のまちづくり 推進事業選考委員会 委員長
猪狩 廣美	政治経済学部 政治経済学科	特任教授	川島町行政改革推進委員会委員
渡辺 英人	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市個人情報保護審査会 審議委員
渡辺 英人	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市情報公開審査会審議 委員
若原 幸範	政治経済学部 政治経済学科	准教授	さいたま市社会教育委員
若原 幸範	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市市民活動推進協議会 委員
若原 幸範	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市立南中学校学校運営 協議会委員
若原 幸範	政治経済学部 政治経済学科	准教授	上尾市学校運営協議会検討 委員
若原 幸範	政治経済学部 政治経済学科	准教授	稚内市子どもの貧困対策 プロジェクト会議委員
氏家 理恵	人文学部 欧米文化学科	教授	子ども大学あげお・いな ・おけがわ実行委員
熊谷 芳郎	人文学部 日本文化学科	教授	埼玉県立大宮武蔵野高等学校 学校評議員

熊谷 芳郎	人文学部 日本文化学科	教授	茨城県立結城第二高等学校学力向上運営指導委員会指導助言者
松井 慎一郎	人文学部 日本文化学科	教授	子ども大学あげお・いな・おけがわ実行委員
井上 兼生	人文学部 日本文化学科	特任教授	上尾市教育委員会の平成 31 年度(平成 30 年度実施事業)点検評価における第三者評価者
横山 寿世理	人文学部 日本文化学科	准教授	埼玉県立大宮光陵高等学校学校評議員
相川 徳孝	人文学部 児童学科	教授	春日部市子育て支援審議会
小池 茂子	人文学部 児童学科	教授	神奈川県生涯学習審議会委員
小池 茂子	人文学部 児童学科	教授	さいたま市公民館運営審議会委員
小池 茂子	人文学部 児童学科	教授	神奈川県生涯学習審議会委員
田澤 薫	人文学部 児童学科	教授	埼玉県立上尾かしの木特別支援学校評議員
田澤 薫	人文学部 児童学科	教授	北本市子ども・子育て会議
小川 隆夫	人文学部 児童学科	特任教授	荒川区小学校英語科モジュール型学習対応教材開発業務委託提案評価委員会委員
小川 隆夫	人文学部 児童学科	特任教授	荒川区教育研究会英語部研究会
齋藤 一雄	人文学部 児童学科	特任教授	さいたま市立ひまわり特別支援学校学校評議員
齋藤 一雄	人文学部 児童学科	特任教授	上尾市就学支援委員会委員
柴崎 裕	人文学部 児童学科	特任教授	東京都日野市小学校教育研究会図画工作部会
相川 章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	上尾市障害福祉施策推進委員会(委員長)
相川 章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	川口市地域保健審議会委員/川口市地域保健審議会部会(自殺対策計画策定会議)(部会長)
相川 章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	上尾市教育委員会特別支援教育推進委員会委員
相川 章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	さいたま市精神医療審査会委員

相川 章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	上尾市いじめ問題調査委員
相川 章子	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	日高市障害者地域総合支援協議会(会長)
中谷 茂一	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	北本市いじめ問題調査委員会委員
中谷 茂一	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	川島町子ども・子育て会議議長
中谷 茂一	心理福祉学部 心理福祉学科	教授	埼玉県子どもの権利擁護委員会 調査専門員
古谷野 亘	心理福祉学部 心理福祉学科	特任教授	上尾市地域包括ケアシステム推進協議会委員長
古谷野 亘	心理福祉学部 心理福祉学科	特任教授	杉並区健康長寿モニター事業運営委員
古谷野 亘	心理福祉学部 心理福祉学科	特任教授	杉並区長寿応援ポイント事業運営委員会委員
古谷野 亘	心理福祉学部 心理福祉学科	特任教授	杉並区介護保険運営協議会委員長
小沼 聖治	心理福祉学部 心理福祉学科	助教	春日部市空家等対策協議会委員
森分 大輔	基礎総合教育部	教授	春日部市総合政策審議会委員
塩崎 亮	基礎総合教育部	准教授	都立図書館在り方検討委員会委員
春木 豊	基礎総合教育部	特任講師	川越市就学相談専門員
川田虎男	地域連携・教育センター ボランティア活動支援センター	専門職	上尾市社会福祉協議会・ 上尾市ボランティアセンター 運営委員会 委員長
川田虎男	地域連携・教育センター ボランティア活動支援センター	専門職	埼玉県社会福祉協議会・ 埼玉県ボランティア・市民活動 センター運営委員会委員
川田虎男	地域連携・教育センター ボランティア活動支援センター	専門職	草加市自治基本条例市民検証 委員会委員

聖学院大学 地域連携事業報告書 2019

2020 年 7 月発行

発行

聖学院大学地域連携・教育センター

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1番1号

TEL: 048-781-0079

E-mail: reco-edu@seigakuin-univ.ac.jp

URL: https://www.seigakuin.jp/about/community_relations/